

福井港港湾振興ビジョン

Vision for the Promotion of the Port of Fukui

2002.3



国土交通省北陸地方整備局



福 井 県



三 国 町

目次

1 .	福井港港湾振興ビジョン策定の目的	1
2 .	福井港の現状	2
3 .	福井港の目指すべき港湾の姿	5
4 .	福井港港湾振興ビジョン	7
	● 人々に開かれた「福井港」	7
	● 地域の産業と生活を支える「福井港」	8
	● 地域の安全・安心を支える「福井港」	9
	● 福井港港湾振興ビジョン体系図	10
	● 福井港港湾振興ビジョン全体のイメージ図	11

1. 福井港港湾振興ビジョン策定の目的

福井臨海工業地帯開発構想

昭和 40 年代に入り福井県は、県内の産業構造の改善と県民所得の向上を図るため、九頭竜川河口左岸に広がる三里浜に、福井臨海工業地帯（現在の通称「テクノポート福井」）を造成することにより、従来からの繊維産業を主力とする内陸工業に加えて付加価値の高い重化学工業等の基幹産業導入を計画し、関係省庁の支援の下に着手した。

福井港開発とその後の展開

同構想の実現のためには、関連インフラのうち港湾が不可欠であるとして、まず港湾整備を開始したが、二度にわたるオイルショックののち、わが国経済の構造が大きく変化したため、重厚長大産業の立地を想定して進めてきた港湾整備に対し、進出・立地した企業は必ずしも当初の構想にあった企業ばかりではなかったため、当初計画した貨物の取扱いがなされなかった。

しかし、福井港は「テクノポート福井」を支える産業基盤および嶺北地域等を背後圏とする流通拠点として重要な役割を担い、地域の産業に貢献してきた。

これまでに整備された施設等の利用状況についてみると、水深 10m 岸壁等の港湾施設で年間 200 万トン前後の貨物が取扱われ、福井臨海工業地帯（「テクノポート福井」）の用地もその 9 割が売却済みで、現在では、操業企業 66 社、従業者数約 3,200 人、県内工業出荷額の 8.2%（1,656 億円）を占めるまでになっている。

福井港の役割の変化

国は、広域的な視点から重要港湾の定義を「国際海上輸送網または国内海上輸送網の拠点となる港湾その他の、国の利害に重大な関係を有する港湾」とし、港格の見直しを行い、平成 12 年 4 月に福井港を重要港湾から地方港湾へ変更した。

一方、平成 12 年 5 月に福井港は、暮らしと経済を支える物流基盤としての役割ばかりでなく、豊かな自然、特色のある歴史、文化、産業などを活かしながら、ゆとりや潤いのある地域づくり、地域の文化や産業の育成に貢献する等の役割にも着目した地域の振興に重要な役割を果たすことが期待される港湾として「特定地域振興重要港湾」に選定された。

これまでの福井港は、当初の臨海工業地帯構想に基づいて計画された港で、その後の産業構造や物流構造の変化、地域住民からの要請等福井港を取り巻く状況の変化に、必ずしも十分に対応できていなかった側面がある。また、工業港である故に、一般市民には直接的には関わりが薄く、親近感が持たれにくい港湾であったことも事実として挙げられる。

これからの福井港が地域の振興・活性化に寄与するためには、経済社会情勢の変化に伴う新たな要請への対応のため、前述の「臨海工業地帯の先導役としての港湾」から「地域の活性化の中核となる、地域と海との接点（物流及び市民への解放等）としての港湾」へと役割を展開する必要がある。

福井港港湾振興ビジョン策定の目的

このような福井港の役割の変化から、地域に重要な役割を果たす港湾として

- 今後の福井港が、一般市民に開かれ、地域の産業と生活を支え、地域の安全・安心を支えて行くため、具体的にどのような取組みを行ってゆけばよいのか、

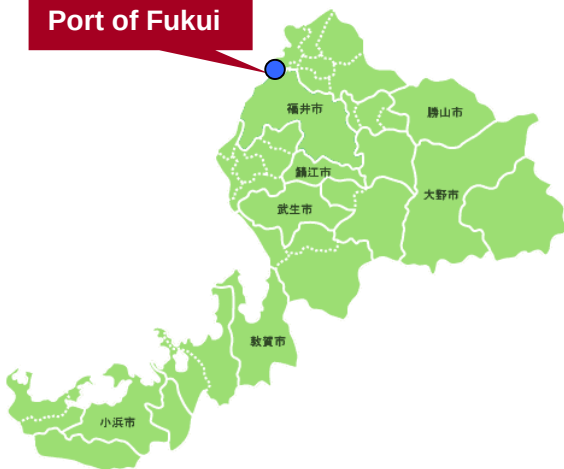
その方策について検討を行うとともに、

- 福井港が人々の生活にとってさらに重要な役割を果たす港湾となるための方策をとりまとめること

を目的とする。対象年次は、概ね 5～10 年を目途とする。

2. 福井港の現状

Port of Fukui



アクセス

福井港まで

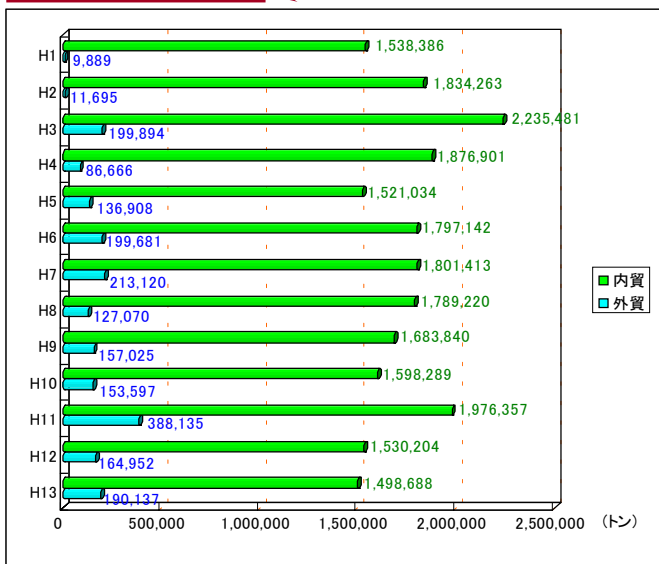
福井市	00 : 30	
福井北 IC	00 : 50	
丸岡 IC	00 : 25	
金津 IC	00 : 40	
大阪	03 : 30	
名古屋	03 : 00	

福井駅まで

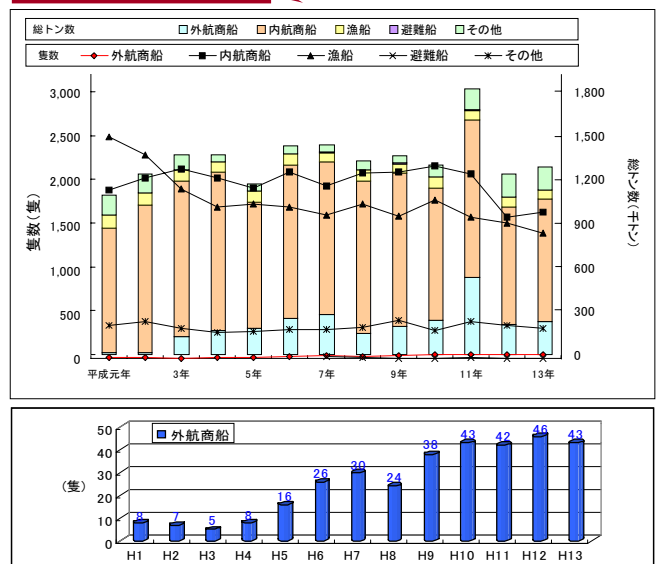
新大阪	01 : 50	
名古屋	01 : 40	

利用状況

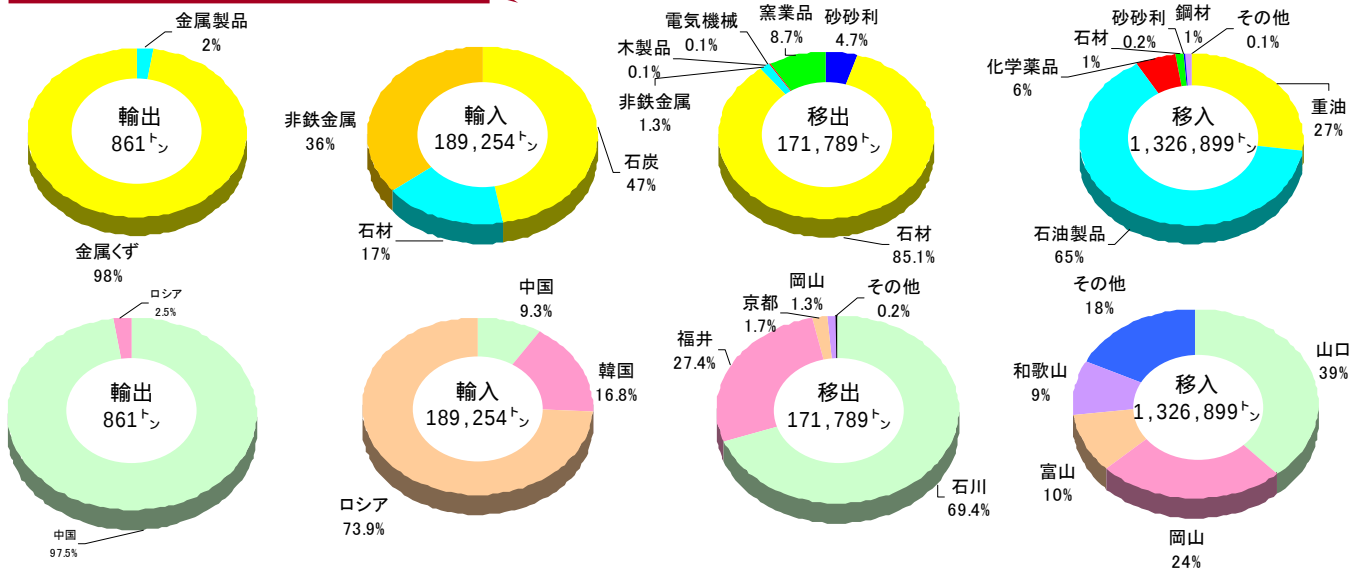
取扱貨物量の推移



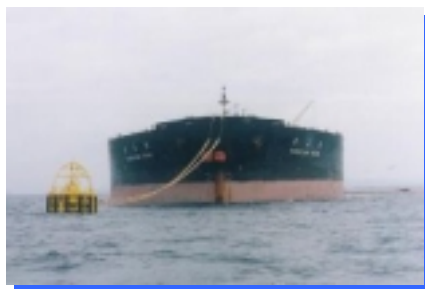
入港船舶の推移



品目別、相手先別取扱貨物量 (H13)



福井港の利用状況



●一点係留ブイ



●ガソリンの荷役



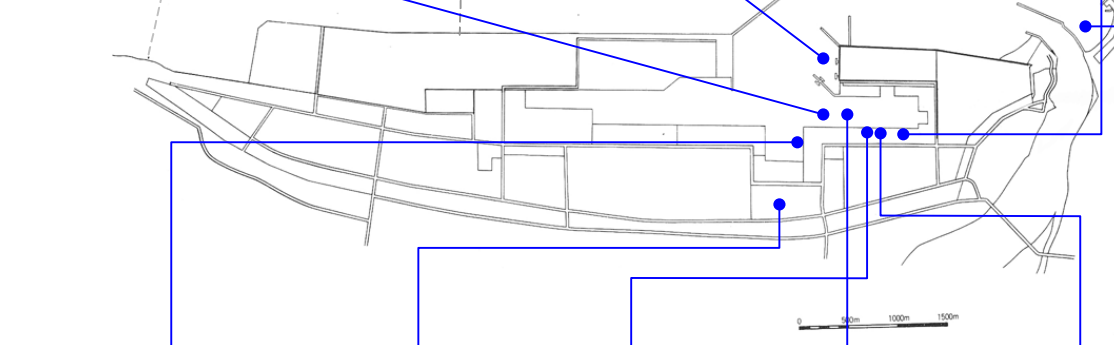
●サンセットビーチ



●豪華客船ふじ丸によるクルーズ出航(平成 13 年 9 月)



●石材蔵置状況；6号野積場、北7号岸壁
(輸入石材、国産石材)



●石炭荷役状況；北1号岸壁、北1号野積場貯炭場



●セメント会社によるサイロ建設中(平成 13 年)



●ナホトカ号重油流出事故の際の油回収作業(平成 9 年 2 月)



●テクノポート福井総合公園
(テクノポート福井スタジアム)

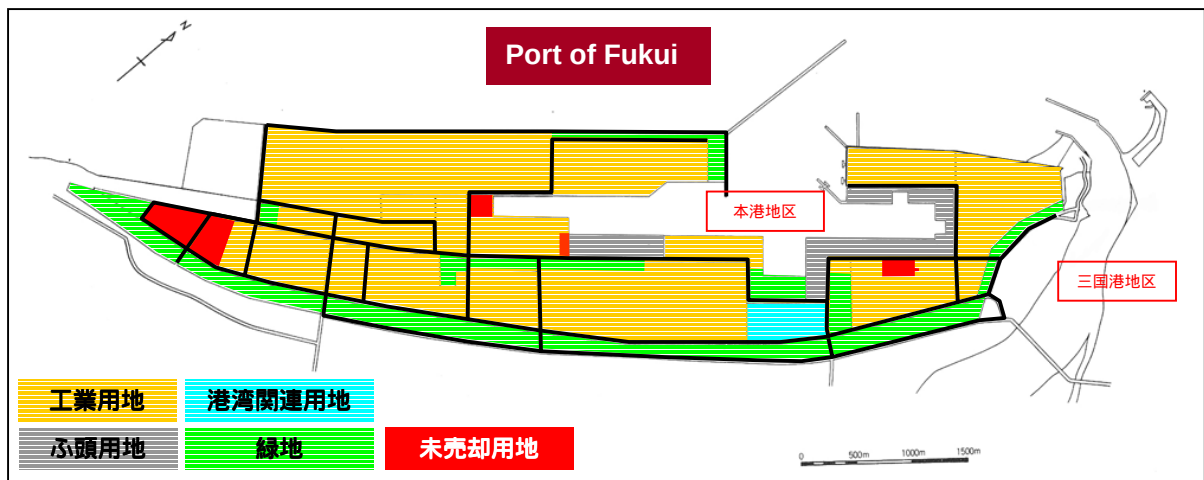


●北3号岸壁；アルミ船



●福井港ポート天国における水上オートバイ操船体験
(平成 13 年 7 月 15 日)

テクノポート福井

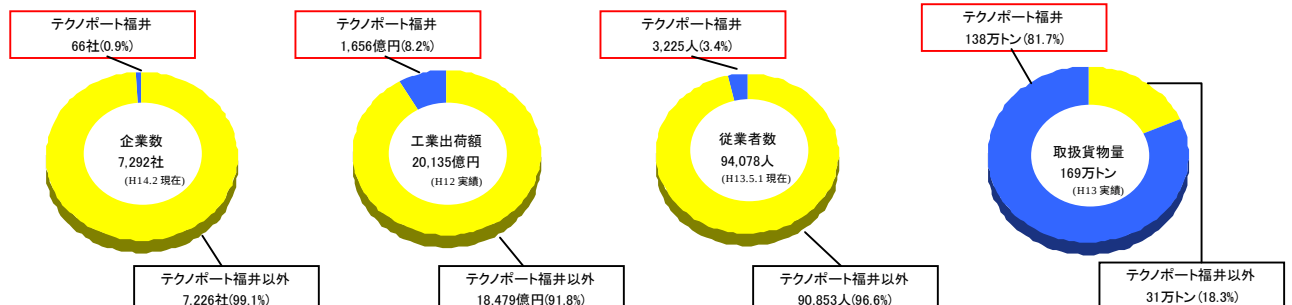


概要

	面積
団地総面積	1,236ha
産業用地	731ha
公共用地	347ha
その他	158ha

	概要	備考
契約企業数	78 社	H14.2 現在
操業企業数	66 社	H14.2 現在
売却済み面積	662ha(90.5%)	H14.2 現在

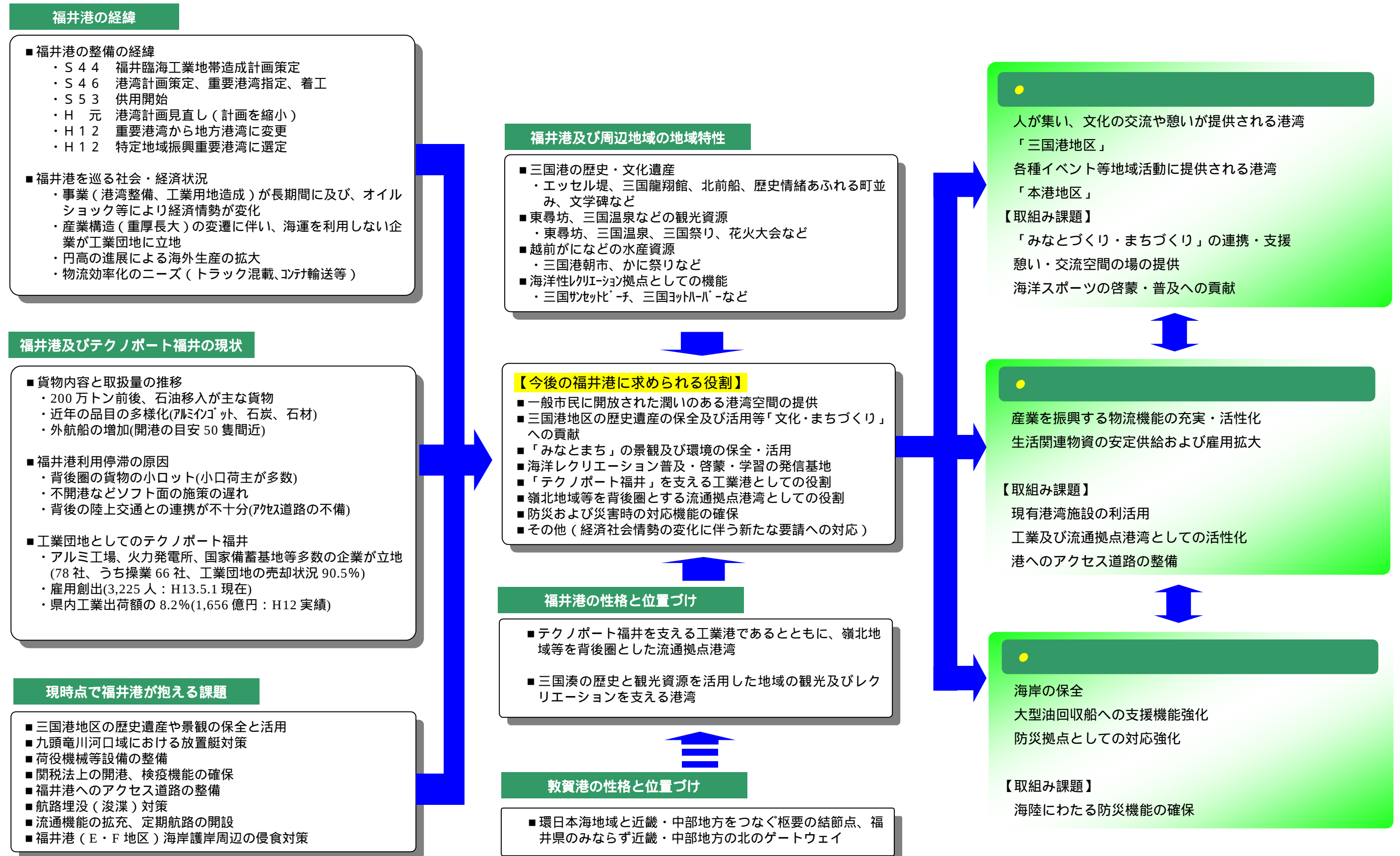
県全体に占める割合



福井港の課題

- 三国港地区の歴史遺産や景観の保全と活用
- 九頭竜川河口域における放置艇対策
- 荷役機械等設備の整備
- 関税法上の開港、検疫機能の確保
- 福井港へのアクセス道路の整備
- 航路埋没（浚渫）対策
- 流通機能の拡充、定期航路の開設
- 福井港（E・F地区）海岸護岸周辺の侵食対策

3. 福井港の目指すべき港湾の姿



4. 福井港港湾振興ビジョン

これまで福井港は、工業港としての性格から一般市民には直接的には関わりが薄く、親近感が持たれにくい港湾であった。一方で、三国港地区には多くの歴史・文化遺産を有し、また本港地区をも含め、人々が海に接し、みなとの風情に親しむためのポテンシャルを有している。そこで、ポートパークや自然公園等を整備し、また、各種イベントを開催するなどにより、福井港を人々が集い憩える空間として活用していく。

人が集い、文化の交流や憩いが提供される港湾空間「三国港地区」

- **歴史的遺産を活用した港湾空間の形成**
三国湊の歴史遺産を保全するとともに水際線を整備し、両者が一体化した海洋文化を育む美しい港湾空間の形成を図る。
- **海洋性スポーツの啓蒙・普及（海辺の体験学習空間の形成）**
三国ヨットハーバーおよび整備予定のポートパークを活用し、ヨット、カヌー等の体験教室を開催するなど学習機会の提供を図る。
- **不法係留艇対策**
九頭竜川河口左岸地区にポートパークを整備し、放置艇禁止区域を指定する等し、不法係留艇の一掃を図る。
- **各種イベントの開催**
整備予定のポートパークにおいて、食の祭典、フリーマーケット等各種イベントを開催し、人々の海へのふれあい、交流を促進する。

各種イベント等地域活動に提供される港湾空間「本港地区」

- **地域の魅力を発信する機会となるクルーズ客船の寄港誘致**
クルーズ客船を誘致し、福井港を活用した新たな観光ルートの創出を図る。
- **海洋スポーツ等の各種イベントの開催**
福井港で開催されている「ポート天国」等のイベントの拡充を図り、一般市民に親しまれる港づくりを行う。

福井港の物流面での利活用は、その性格や背後圏の特性から当面は工業原材料や建設資材などのバルク（ばら積み）貨物が中心と考えられ、企業立地との連携を図りつつ地道に貨物の発掘を行うことが必要である。一方、長期的には、中国を始めとする環日本海諸国の経済発展や、中部縦貫自動車道などのアクセス道路の整備による背後圏の拡大等により、流通港湾としての機能を増進することが期待できる。

地域産業を振興する物流機能の充実・活性化

- **関税法上の開港**
ポートセールスなどにより外航船の入港実績を上げ、関係機関へ要望を行い、関税法上の開港の早期実現を図る。
- **荷役機械等の整備**
使いやすい港を目指して、所用のクレーン等の荷役機械や夜間照明施設等の整備を促進する。
- **港へのアクセス道路の整備**
利用しやすい港を目指して、北陸自動車道丸岡 IC とを結ぶ福井港丸岡インター連絡道路、背後圏の最大の都市である福井市とを結ぶ都市計画道路福井川西線等のアクセス道路の整備を促進する。
- **バルク（ばら積み）貨物対象のポートセールス**
工業原材料、建設資材及びリサイクル材等のバルク貨物に的を絞ってポートセールスを実施し、取扱貨物量の拡大を図る。
- **ターゲットを絞った独自性のある定期航路誘致**
中国を始めとする環日本海諸国に向けた繊維関係貨物等の特定の貨物、特定の目的地をターゲットとしたシャトル航路誘致等を検討する。

生活関連物資の安定供給および雇用拡大

- **生活関連物資の安定供給**
電力・ガソリン等の生活関連物資を、嶺北地域等背後圏消費者へ安定的に供給する。
- **企業誘致による雇用の拡大**
今後も成長が期待されるリサイクル等の環境関連産業や中古車関連産業等の海運利用企業の誘致に努め、雇用の拡大を図る。

地域住民の安全を確保し、人々の安心をはぐくむことは、みなとの重要な機能のひとつである。福井港は「ナホトカ号」の重油流出事故に際して油回収船の基地等として重要な役割を果たした。また、海岸保全機能や大地震等の激甚災害の発生時における避難民の収容や緊急物資の運搬・保管などに対応するため、機能強化を図ることが必要である。

海岸の保全

- **海岸侵食への抜本的な対策**

福井港（E・F地区）海岸においては、近年、海岸護岸前面の海底変化が著しく、護岸の水叩きが局部的に陥没したり、護岸前面の消波ブロックが沈下するなどの被害が多発しているため、国土保全及び市民の安全確保の観点からも、早急に抜本的な対策を実施する。

大型油回収船への支援機能強化

- **大型油回収船緊急出動時の支援体制の構築**

平成9年1月、ロシア船籍タンカー「ナホトカ号」の重油流出事故は福井県を中心とする日本海沿岸に大きな被害をもたらした。この事故を踏まえ大型浚渫兼油回収船「白山」が日本海側では初めて新潟港に配備されることとなった。

福井港は北九州港の「海翔丸」および「白山」の出動24時間以内カバーエリアのほぼ中間に位置していることから、緊急時における燃料補給、点検作業、一時係留等を支援する最適港と考えられる。さらに高粘度対応油回収装置が配置されており、ナホトカ号重油流出事故の経験を有していることから、緊急時対応の支援体制の構築に努めるとともに、油回収船の公開訓練、体験乗船会等を開催し、防災意識の向上に貢献する。

防災拠点としての対応強化

- **激甚災害発生時の緊急体制の構築**

大地震等の激甚な災害時には、福井港およびその周辺のオープンスペースを活用し、避難民の収容や緊急物資の運搬・保管用地として対応を図る。

阪神・淡路大震災時には、陸上輸送機能が麻痺し、救助・救援に困難をきたしたが、耐震強化岸壁を通じて緊急物資を搬入する等海上輸送の威力が発揮された。陸上ネットワークが整備されている嶺北地域においても、災害発生直後のネットワーク切断に備えて、耐震岸壁の整備等により海上ルートの確保を図る。

福井港港湾振興ビジョン体系図

＜福井港の将来像＞

人々に開かれた「福井港」

潮の香り漂う海辺、一般市民が身近に感じくつろげるウォーターフロントと歴史・文化溢れるみなとまちを人々に提供する。



＜福井港の果たす役割＞

人が集い、文化の交流や憩いが提供される港湾空間「三国港地区」

各種イベント等地域活動に提供される港湾空間「本港地区」

＜取組み方策＞

歴史的遺産を活用した港湾空間の形成
海洋性スポーツの啓蒙・普及（海辺の体験学習空間の形成）

不法係留艇対策
各種イベントの開催

地域の魅力を発信する機会となるクルーズ客船の寄港誘致
海洋スポーツ等の各種イベントの開催

地域の産業と生活を支える「福井港」

「テクノポート福井」を支える工業港として、また嶺北地域等の物流を担う流通拠点港としての機能を発揮する。



地域産業を振興する物流機能の充実・活性化

生活関連物資の安定供給および雇用拡大

関税法上の開港
荷役機械等の整備
港へのアクセス道路の整備
バルク（ばら積み）貨物対象のポートセールス
ターゲットを絞った独自性のある定期航路誘致

生活関連物資の安定供給
企業誘致による雇用の拡大

地域の安全・安心を支える「福井港」

陥没が多発する福井港（E・F地区）海岸護岸周辺の保全を急ぐとともに、日本海における重油流出事故や激甚災害の発生に備えた体制の整備を行う。

海岸の保全

大型油回収船への支援機能強化

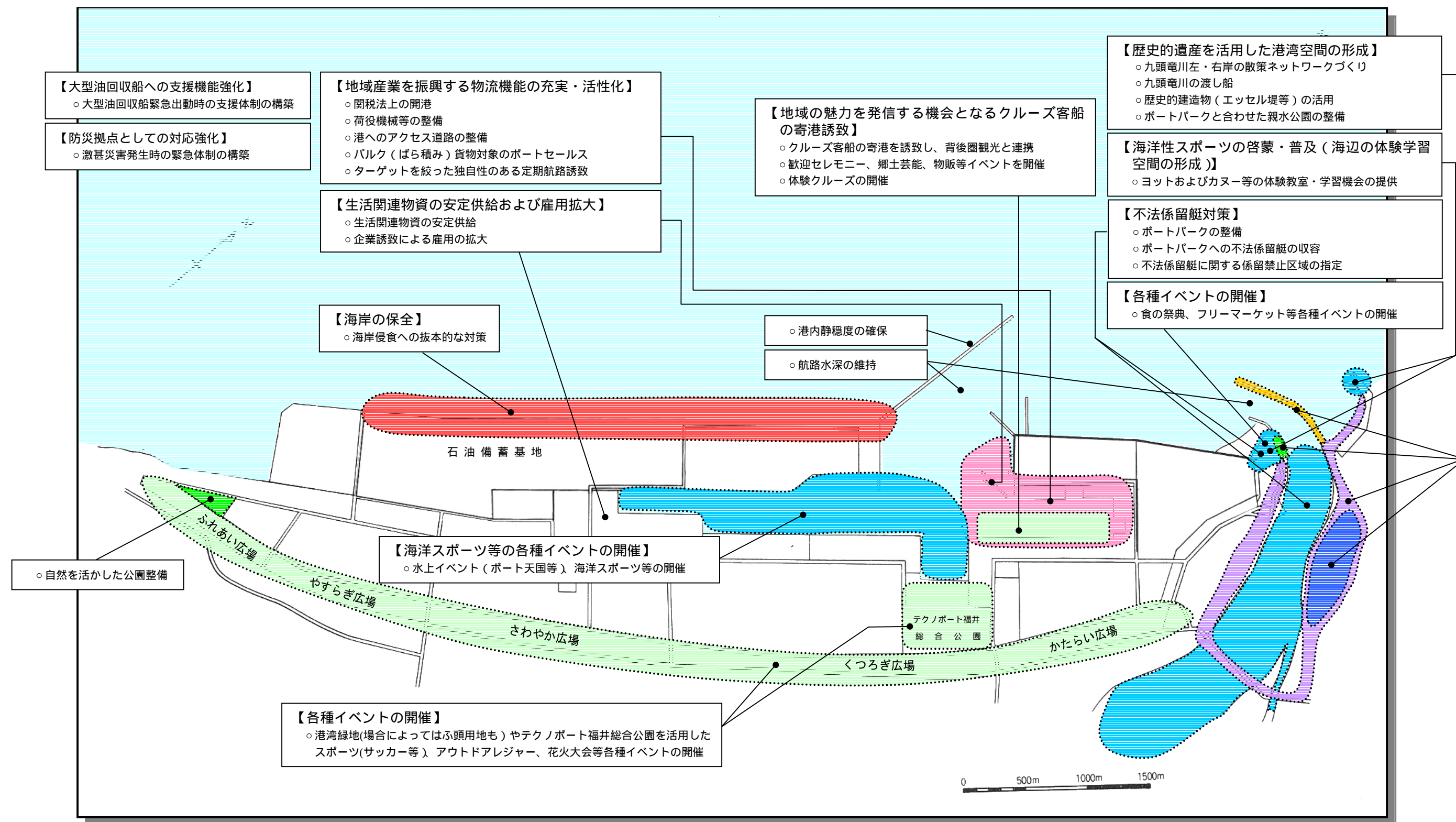
防災拠点としての対応強化

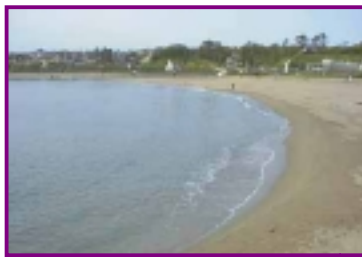
海岸侵食への抜本的な対策

大型油回収船緊急出動時の支援体制の構築

激甚災害発生時の緊急体制の構築

福井港港湾振興ビジョン全体のイメージ図





●三国サンセットビーチ



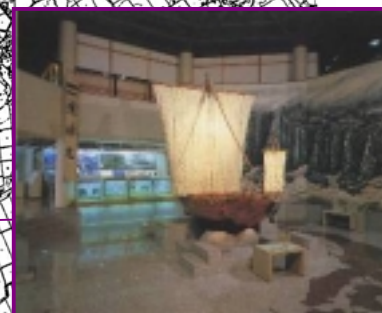
●三国温泉ゆあぽ〜と



●龍翔館



●朝市



●北前船



●エッセル堤



●漁港区



●かぐら建て等の歴史ある町並み